

# 江戸の のれんに学ぶ 事業承継と人づくり

第六回

吉徳

## 山田徳兵衛社長

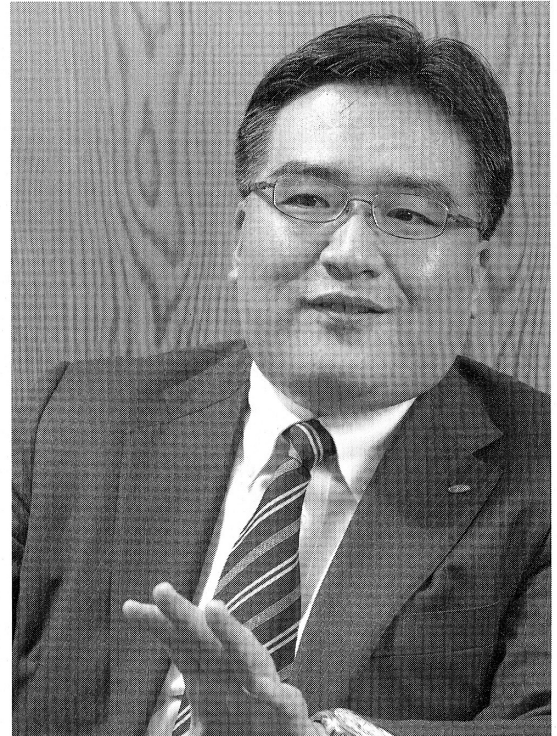
時代の「半歩先」を見て

マイナーチェンジし続ける

モアクリエイション代表取締役 柴田光榮

「茅町でしのぎを削る節句前」と古川柳に詠まれた茅町は、今のJR浅草橋駅界隈に当たります。日本人形や玩具を商う店が軒を連ねる中、最古ののれんを誇るのが「吉徳」です。1711年、初代が徳川6代將軍家宣公から「吉野屋」の屋号を授け

られた年を創業（明治以降「吉徳」と改名）としました。それから300年、人形文化を芸術にまで高める努力を続けてきました。伝統文化を守りつつ、一方で企業経営の発展を図り続けてきたポイントを「吉徳」十二世山田徳兵衛社長に伺いました。



吉徳を在らしめるのは「勝たずとも負けるな」

300年を貫く吉徳の経営の基本はどこにあるのでしょうか。

「実は、私どもには家訓とか掟といったものはないのです。あえて言えば、祖父十世から聞いた『勝たずとも負けるな』、この言葉を大切にしています。『商売で負けることは多くの方々に迷惑をかけることになるから、断じてあつてはいけません。一方、

自分だけの独り勝ち、すなわち利益目的だけに走ってはいけない、業界全体を常に考えて商売しなさい。』。こう解釈して日々の仕事に反映させています」と吉徳の山田徳兵衛社長。

「勝たずとも負けるな」。実に含蓄ある言葉と伺いました。この言葉こそ、「吉徳」の経営の神髄を表しているようです。

300年12代にわたり創業以来の旗を守り育ててきた「吉徳」。どうやって事業と文化が継承されてきたの

やまだ とくべ

1968年生まれ。立教大学社会学部産業関係学科卒業。㈱サンリオを経て、94年㈱吉徳入社。2002年に専務取締役、07年に社長就任。10年に十二世山田徳兵衛を襲名、現在に至る

Profile